

## 評価に関する検討状況

### 1 評価に関するこれまでの経過

- (1) 「各事業の評価の流れ図（構造図）」…資料 1-10
  - ・平成 19 年度に、「県民会議」において、各特別対策事業と最終目標である「良質な水の安定的確保」の効果を評価する道筋を整理するため作成した
  - ・第 1 期、第 2 期、第 3 期と施策が進む過程で細部の修正を行っている
  - ・現在の「各事業の評価の流れ図（構造図）」は、平成 25 年度版点検結果報告書（平成 26 年度作成）がベースとなっている
  - ・第 3 期版は 11 の特別対策事業バージョンになっている
- (2) 「総合的な評価（中間評価）報告書」
  - ・これまでの事業実績やモニタリング調査の結果をもとに、施策の総合的な評価（中間評価）に取り組んできた

### 2 総合的な評価（中間評価）報告書の概要（平成 27 年 8 月）

- (1) 経済評価（平成 27 年 1 月実施）
  - ア 一世帯当たりの支払い意志額  
10,644 円/年
  - イ 施策実施による水源保全地域の経済的価値  
365 億円/年  
(=10,644 円/年×世帯数 3,973,785×有効回答率 86.3%)
- (2) 水源かん養機能の向上、生態系（森林）の健全化  
『森林の保全・再生にかかる事業が進捗し、下層植生衰退地での植生回復と土壤保全が漸次進んでいることから、現時点では、水源地域の森林の水源かん養機能や森林生態系の健全化は維持・向上の方向にあると考えられる。』
- (3) 生態系（河川）の健全化、水源水質の維持・向上  
『河川の保全・再生に関しては、目標を上回る事業進捗により、河川・水路における自然浄化対策が進捗し、水質結果に大きな変化はないものの、底生動物の増加が確認された箇所もあるなど、一定の効果がでてきている。』

### 3 最近の議論の動き等

- ・平成 32 年 5 月に県民会議が、「総合的な評価（中間評価）報告書」を作成することになった
- ・施策を評価するための「ものさし」が必要とする議論が生じた
- ・「各事業評価の流れ図（構造図）」はイメージ図であり具体的な数字は入っていないので、具体的に数値化したものが掲げられれば分かりやすい
- ・施策調査専門委員会委員から「大綱 20 年間の取組の評価方法と評価指標案」について意見がでた…資料 1-11
- ・次の経済評価は、第 4 期 2 年目を目途に実施する